

教科内容

2年生

科 目 名	歯科保健統計			授業担当者	比嘉 努	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教 員	兼任	専任

《学習目標》

歯科衛生士に必要な歯科保健統計の種類、方法を学び、統計的な見方、使う技術を身につける。

《到達目標》

医療に関連した一般的な統計の種類、内容について分野ごとに理解できる。

1. データの形態や分布などの特徴を説明でき、EBMを理解できる
2. 有病および罹患を説明し、有病率、罹患率、発病率、また敏感度および特異度を計算できる
3. 指標と指数を理解できる
4. 保健調査の基本、母集団と標本、標本抽出法が理解できる
5. データ、数値のもつ特徴を理解できる
6. 代表値や散布度、分布度に応じた検定を選定できる
7. 検定の流れ、t検定、x²検定を説明できる
8. 情報の特性や情報モラルを理解できる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験 實習 習
1	保健情報と保健統計 (1) 保健情報、(2) 保健統計	<input type="radio"/>		
2	保健情報の種類	<input type="radio"/>		
3	国家統計調査	<input type="radio"/>		
4	保健情報と疫学	<input type="radio"/>		
5	観察研究、介入研究、スクリーニング（疾病と検査との関係）	<input type="radio"/>		
6	歯科疾患の指数	<input type="radio"/>		
7	保健情報の分析手順	<input type="radio"/>		
8	母集団と標本抽出、復元抽出と非復元抽出	<input type="radio"/>		
9	保健統計の方法、データの特性、記述統計、推定と信頼区間、検定	<input type="radio"/>		
10	保健情報の多変量解析	<input type="radio"/>		
11	保健情報の分析手順	<input type="radio"/>		
12	図表の作り方	<input type="radio"/>		
13	情報の保護と倫理	<input type="radio"/>		
14	個人情報の保護、情報モラル	<input type="radio"/>		
15	まとめ	<input type="radio"/>		

《評価方法》

試験、出席状況など総合的に評価

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「保健生態学」（医歯薬出版）

《実務経験》

歯科臨床歴23年、大学病院、総合病院での臨床の実務経験をもとに実務経験を活かし歯科保健統計学について講義を予定している。

科目名	保存修復学			授業担当者	渡慶次 彰	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	1 単位20時間 (内10時間担当)	
授業方法	講義	10	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内	校外	教員	兼任	専任	

《學習目標》

保存修復学における基礎知識、技術の理解と習得に努める。

《到達目標》

1. 保存修復学の意義、目的を理解する
 2. 保存修復学の基礎知識の習得、用いる材料器具等の理解に努める
 3. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解する

《授業計画》

回	授業内容	授業計画		
		講義	演習	実験・実習・技術
1	保存修復学の概要と目的を理解する	○		
2	保存修復学において必要な審査、及び問診等の理解	○		
3	保存修復学で用いる器具、及びその使用法	○		
4	間接法修復のインレー、アンレー修復の意義・概要、具体的な内容の理解	○		
5	保存修復における歯科衛生士の役割の理解	○		

《評価方法》

定期試験で総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括的に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)

《実務経験》

埼玉県浦和市波多野歯科医院にて5年間、保存修復、歯内療法、補綴の治療を主に担当。

波多野歯科医院での実務経験をもとに保存修復について講義を行います。

科目名	保存修復学			授業担当者	上江洲 出	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	1単位 20時間(内10時間担当)	
授業方法	講義	10	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《學習目標》

歯科診療で最も頻度の高い保存診療の内容について理解する

《到達目標》

1. コンポジットレジン修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。
 2. セメント修復について、その組成、種類、特徴、適応症、その手順を説明できる。
 3. ベニア修復やその他セラミックインレー、コンポジットインレー修復法について説明できる。
 4. 保存修復における歯科衛生士の役割を理解し、手順と診療補助について説明できる。

《授業計画》

《評価方法》

定期試験で、総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)

保存修復学21 (永末書店)

その他

《実務経験》

上原歯科クリニックに勤務。5Djapanファンダメンタル エンド修復コース、福西一浩先生・宮崎真至先生のCR修復セミナー受講。これらの経験をもとに保存修復学について講義を行います。

科 目 名	歯内療法学			授業担当者	岡村 健司	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	1 単位20時間	
授業方法	講義	19	演習	実験・実習・実技	1	
授業場所	校内		校外	教 員	兼任	専任

《學習目標》

歯髓および根尖性歯周疾患の原因・分類を把握し、その予防・治療法を理解するとともに歯の保存治療の意義を学ぶ

《到達目標》

1. 歯髓炎や根尖性歯周炎に伴って発現する疼痛などの臨床症状について理解し、患者さんに十分な説明ができるようにする。
 2. 処置方針を理解したうえで、術前の器械・薬剤等の準備や、術中の術者の治療操作が円滑にできるよう補助できるようになる

『授業計画』

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験・実習
1	歯内療法の概要	○		
2	歯髓の保存療法	○		
3	歯髓の除去療法（拔髓・感染根管治療）	○		
4	根管治療・根管充填	○		
5	外科的歯内療法	○		
6	歯の外傷	○		
7	歯内療法における安全対策	○		
8	歯内療法における歯科衛生士の役割	○		
9	実習	○		△
10	歯内療法まとめ	○		

《評価方法》

定期試験での総括的な評価を行う
出欠・授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)

《実務経験》

大阪大学大学院歯科保存学教室卒業（歯学博士）
おかむら歯科医院にて歯科医師として勤務

科目名	歯周療法学			授業担当者	金子 智之	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

- ・歯周病の予防と治療について理論的に理解し、患者に対して適正な歯科保健指導が行えるように、口腔清掃指導の知識と技術を修得する
- ・歯周治療における知識や歯科衛生士の担う役割について修得する

《到達目標》

- ・正常な歯周組織について、説明できる
- ・歯周疾患の成り立ちを理解し、分類ができる
- ・歯周疾患の治療法、予防法を理解し、その基本的な考え方が説明できる
- ・歯周疾患の診査、診断方法、歯周基本治療が説明できる
- ・歯周治療における歯科衛生士の役割について具体的に説明できる
- ・歯周治療における口腔衛生指導は歯科衛生士が主体となって行い、モチベーションの重要性を認識する
- ・歯周治療を進める中で、患者のその時の症状や状態に応じた指導を行う事ができる
- ・歯周治療の手技について理解し、患者へ治療方針の説明ができると同時に適確なサポートができる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法			
		講義	演習	実習	実践
1	歯周治療とは、正常な歯周組織の構造	○			
2	歯周組織の機能	○			
3	歯周疾患の分類：歯肉炎と歯周炎の違い	○			
4	歯周疾患の原因、歯周医学	○			
5	歯周治療の進め方	○			
6	歯周疾患の診査	○			
7	歯周基本治療、まとめ	○			
8	歯周治療の流れと口腔衛生指導におけるモチベーションの重要性	○			
9	歯周外科の目的、用いる器具と手技について	○			
10	各歯周外科手術の目的、術式	○			
11	〃	○			
12	〃	○			
13	咬合性外傷の診断、処置、固定法について	○			
14	歯周治療におけるメインテナンスと衛生士の役割	○			
15	まとめ	○			

《評価方法》

定期試験で総括的評価を行う。出欠状況、授業態度などを総合的評価に加味する。
レポート提出もあり得る

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「歯周病学 第2版」（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本「歯周疾患」（医歯薬出版）

《実務経験》

歯科医師として大阪大学歯学部付属病院保存科に勤務。主に歯周病及び齲歯治療を担当した。
歯科医師として米国ペンシルベニア大学歯周病学講座で勤務。主に歯周病の研究と学生教育を担当した。
これらの実務経験をもとに、歯周病学について講義を行います。

科目名	歯科補綴学			授業担当者	玉城 均	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位30時間(内20時間担当)	
授業方法	講義	20	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

口腔内の失われた形態や諸機能を回復させるための歯科補綴治療の広範な知識と技能を修得する。
また、回復された口腔の形態や機能保持のための知識と技能を含めて習得する。

《到達目標》

- ・補綴治療の目的について述べることができる
- ・補綴治療に必要な解剖学的な知識を述べることができる
- ・補綴治療に必要な基礎的な用語を詳説できる
- ・人工材料や歯科技工など歯科治療の特殊性を概説できる
- ・義歯の種類や分類について説明できる
- ・義歯の構成について説明できる
- ・義歯の制作方法を概説し、取り扱いなど患者さんに説明できる

《授業計画》		授業方法			
回	授業内容	講義	演習	実験	実習
1	補綴治療の目的、特殊性について	<input type="radio"/>			
2	補綴装置の種類と適応について	<input type="radio"/>			
3	補綴治療の基礎知識～歯列の形態と位置的関係について	<input type="radio"/>			
4	補綴治療の基礎知識～顎口腔系の機能、咬合	<input type="radio"/>			
5	補綴治療の基礎知識～下顎位、下顎運動	<input type="radio"/>			
6	部分床義歯の分類・構成	<input type="radio"/>			
7	部分床義歯の制作の手順・方法	<input type="radio"/>			
8	部分床義歯の技工・患者指導	<input type="radio"/>			
9	全部床義歯の分類・構成	<input type="radio"/>			
10	全部床義歯の制作の手順・方法・技工・義歯の修理	<input type="radio"/>			

《評価方法》

定期試験で総括的評価を行う
レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版」(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本 「歯科材料」(医歯薬出版)

《実務経験》

卒業後に北医療大第一補綴学講座勤務。補綴診療、研究、学生教育に従事。
その後、ながた歯科医院を開業。37年間の実務経験に基づいて歯科補綴学の講義を行います。

科目名	歯科補綴学			授業担当者	長堂 忍	
開講時期	2年生 前期			単位・時間数	2単位30時間（内10時間担当）	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技	
授業場所	校内		校外		教員	兼任

《學習目標》

補綴学における専門用語、補綴物の種類、利点、欠点、治療の一連の流れを習得、理解する。

《到達目標》

1. 補綴学の意義
 2. 補綴物の種類、利点、欠点
 3. 専門用語の理解
 4. 治療における一連の流れを習得する

《評価方法》

定期試験、授業態度を総合して判断する。

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版」(医歯薬出版)

《実務経験》

歯科医師として長堂歯科医院にて診療に従事。31年の実務経験をもとにクラウン・ブリッジについて講義を行います。

科目名	歯科矯正学			授業担当者	渡口 進一・塙谷 沙織					
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 30時間					
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技						
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任				
<p>《学習目標》</p> <p>わが国における歯科の専門分野としての歯科矯正の目的及び、その意義について理解する。</p> <p>又、関連する内容を修得する</p>										
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 歯科矯正の概要を説明できる 歯科矯正の知識や技術を身につける 歯科矯正を臨床面でも応用できる 歯科矯正の知識を得ることによって社会に普及できる 今後の歯科矯正の発展及び予防に貢献できる 										
《授業計画》					授業方法					
回	授業内容				講義	演習				
1	矯正歯科治療の概要				<input type="radio"/>					
2	成長発育				<input type="radio"/>					
3	正常の咬合と不正咬合				<input type="radio"/>					
4	矯正歯科診断				<input type="radio"/>					
5	矯正歯科治療と力—矯正力・顎整形力・保定—				<input type="radio"/>					
6	矯正装置				<input type="radio"/>					
7	上下顎の前後的関係の不調和 上下顎の垂直的関係の不調和				<input type="radio"/>					
8	成人矯正 口腔顎顔面の形成異常と変形				<input type="radio"/>					
9	歯の埋伏と歯数の異常				<input type="radio"/>					
10	矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正歯科治療				<input type="radio"/>					
11	矯正歯科診断にかかる業務				<input type="radio"/>					
12	矯正歯科診療時の業務				<input type="radio"/>					
13	矯正歯科患者と口腔保健管理 口腔筋機能療法 器材、資料、文書の管理				<input type="radio"/>					
14	まとめ				<input type="radio"/>					
15	小テスト				<input type="radio"/>					
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で、総括的評価を行う</p> <p>出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>										
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科矯正」（医歯薬出版）</p> <p>予防歯科学等</p>										
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として大学病院矯正歯科に勤務後、矯正歯科医院に勤務。</p> <p>主に矯正の治療を担当。矯正歯科での実務経験をもとに歯科矯正学について講義・実習を行います。</p>										

科目名	口腔外科・歯科麻酔学			授業担当者	新垣 敬一	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

口腔領域に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身疾患の部分症として口腔に現れる疾患の原因、症状、治療法および口腔外科治療に関連する臨床検査、麻酔法について理解できる。疾患の処置・手術にあたっては、疾患の発症原因と予後を理解した上での介助を行うことができる

《到達目標》

- 各種口腔外科疾患の病態や治療法について理解できる
- 口腔外科疾患の治療(特に抜歯や口腔外科小手術等)の際、歯科衛生士としての診療補助
- 口腔外科疾患の治療の際の、注意事項(特に抜歯や口腔外科小手術等)について十分理解し、患者に説明できる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実習・実技
1	口腔外科と歯科衛生士、口腔疾患と内科疾患との関係	○		
2	口唇裂・口蓋裂 頸の先天異常と変形、口腔領域の損傷	○		
3	小テスト、口腔粘膜疾患	○		
4	歯の異常・口腔軟組織の先天異常 頸関節疾患	○		
5	口腔領域の炎症(感染症)、口腔領域の囊胞・腫瘍	○		
6	唾液腺疾患・口腔領域の神経性疾患・血液疾患と出血性素因	○		
7	診察と診断、滅菌と消毒、抜歯術・口腔外科小手術	○		
8	歯科治療と歯科麻酔	○		
9	救急蘇生法、口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり	○		
10	口腔外科・歯科麻酔総括	○		
11	局所麻酔と精神鎮静法 全身麻酔と救急蘇生法	○		
12	口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり	○		
13	口腔外科 歯科麻酔処置における業務	○		
14	インプラント手術の業務 術前術後のケアと器材の管理	○		
15	歯科麻酔の総括	○		

《評価方法》

成績評価は学習態度および小テスト、定期試験の総合判定により行う

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)

《実務経験》

歯科・口腔外科医師歴30年以上の経験、口腔外科専門医/指導医の資格をもとにこれまで本学校の講義を行ってきた。引き続き、勤務する沖縄県立中部病院の臨床経験と学会等の最新の知識を踏まえた講義を行う予定。

科目名	小児歯科学			授業担当者	山里 理恵子	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	30	演習		実験・実習・実技	
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

小児の身体的・精神心理的特徴と小児の歯科治療の留意点を理解する。
健全な永久歯列を完成させるうえで、障害となる疾患・形成異常・習癖の治療と予防を学ぶ。

《到達目標》

- ①小児歯科の目的を理解し、小児歯科医療の特徴を学ぶ
- ②小児の心身の発達と生理的特徴を説明できる
- ③乳歯と幼若永久歯の特徴をつかみ、予防処置と保健指導の重要性を理解する
- ④小児の全身疾患、歯科疾患について理解し説明できる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法			
		講義	演習	実験	実習・実技
1	小児歯科学概論	○			
2	心身の発達	○			
3	小児の生理的特徴	○			
4	顔面頭蓋の発育	○			
5	歯の発育とその異常	○			
6	歯列・咬合の発育と異常	○			
7	小児の歯科疾患	○			
8	小児期の特徴と歯科的問題点、小児歯科における患者との対応法	○			
9	小児歯科における診療体系①	○			
10	小児歯科における診療体系②	○			
11	障害児の歯科治療	○			
12	診察・検査時の業務、う蝕予防	○			
13	小児歯科における診療補助	○			
14	小児の口腔保健管理	○			
15	歯科診療室と機材の管理 まとめ	○			

《評価方法》

定期試験・レポート提出・出欠状況・授業態度などを総括的に評価する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「小児歯科」 (医歯薬出版)

《実務経験》

歯科医師として与那原中央病院歯科・口腔外科に勤務。主に病棟・訪問診療を担当。
歯科診療の経験をもとに、小児歯科について講義を行います。

科目名	障害者歯科			授業担当者	水野和子・勝連義之・長嶺和希	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	1単位 16時間	
授業方法	講義	16	演習		実験・実習・実技	
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

障害と障害者について社会的な視点から理解をする
 障害の特徴を理解したうえで、歯科治療上の問題点や注意点を理解する
 患者の人権を尊重したコミュニケーション法を知り、基本的な行動調整法を学習する
 障害者の保健指導として、障害の特性と指導法の工夫や効果、指導の限界を学習する

《到達目標》

1. 障害と障害者について社会的な視点から理解し、説明ができる
2. 障害者歯科における歯科衛生士の使命を理解できる
3. 歯科保健と医療における障害者歯科の特質、役割を説明できる
4. 小児、成人、高齢の障害者にみられる歯科的特性を列挙できる
5. 歯科保健、治療における行動調整の種類と特徴を列挙できる
6. 障害者の生活面で必要な歯科的支援について説明できる
7. 障害者歯科治療時のリスク管理を修得する
8. 障害別の歯および口腔の形態的、機能的特徴を列挙できる
9. 障害者の対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を修得する

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験・実習
1	障害の概念	水野	<input type="radio"/>	
2	障害の種類と歯科的特徴（知的障害とその原因となる疾患）	勝連	<input type="radio"/>	
3	障害の種類と歯科的特徴（発達障害）	勝連	<input type="radio"/>	
4	障害の種類と歯科的特徴（運動障害、精神障害）	勝連	<input type="radio"/>	
5	障害の種類と歯科的特徴（障害者と薬剤、てんかん）	長嶺	<input type="radio"/>	
6	障害者歯科治療のリスク管理	長嶺	<input type="radio"/>	
7	障害者歯科における行動調整	水野	<input type="radio"/>	
8	障害者歯科における歯科衛生士の役割	水野	<input type="radio"/>	

《評価方法》

期末試験で、総括的評価を行う

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 (医薬出版)
 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版 (医薬出版)

《実務経験》

- ・療養型病院で医長として10年間、沖縄県・京都府の障害者歯科センターで診療部長・センター長として15年間障害者歯科診療に専従。日本障害者歯科学会指導医・専門医・認定医。
- 滋賀県立総合保健専門学校・京都歯科医療技術専門学校・沖縄歯科衛生士学校で指導（水野和子）
- ・歯科医師として沖縄県口腔保健医療センターに勤務。主に障害者の治療担当（長嶺和希）
- ・歯科医師として医療法人悠歯会那覇まかび歯科に勤務。一般歯科・障害者の治療担当（勝連義之）
- 障害者歯科での実務経験をもとに障害者歯科について講義を行います。

科目名	高齢者歯科学			授業担当者	加藤 進作	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	1単位 15時間	
授業方法	講義	16	演習	実験・実習・実技		
授業場所	<input checked="" type="radio"/> 校内		校外		<input checked="" type="radio"/> 教員	<input checked="" type="radio"/> 兼任

《学習目標》

高齢者・有病者に対しての適切な口腔保健管理ができるように、高齢者の全身及び精神的特徴に関する知識、技能を修得する

《到達目標》

- ・高齢者をとりまく社会と環境について説明できる
- ・高齢者の加齢による全身的及び口腔領域の変化について説明できる
- ・高齢者の口腔ケアの内容、留意事項について説明できる
- ・要介護高齢者の現状、特徴を概説できる
- ・要介護高齢者への口腔ケアの手法や注意点を説明できる
- ・高齢者の在宅医療と介護について把握できる
- ・歯科衛生過程の概念について説明できる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験 実習 実技
1	高齢者の現状	<input checked="" type="radio"/>		
2	高齢者の全身的疾患及び口腔疾患	<input checked="" type="radio"/>		
3	高齢者の日常状態の把握及び薬剤	<input checked="" type="radio"/>		
4	高齢者の口腔ケア	<input checked="" type="radio"/>		
5	要介護高齢者の現状	<input checked="" type="radio"/>		
6	在宅訪問診療の実際	<input checked="" type="radio"/>		
7	高齢者歯科における歯科衛生過程	<input checked="" type="radio"/>		
8	まとめ	<input checked="" type="radio"/>		

《評価方法》

定期試験で、総括評価を行う
レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版)
老年歯科医学会誌

《実務経験》

昭和59年以来の歯科臨床経験をもとに、高齢者歯科について講義を行います。
日本老年歯科医学会の会員として学会へ参加し、最新の知識・情報を授業に展開していきます。

科目名	歯科放射線学				授業担当者	神下 太一	
開講時期	2年 後期				単位・時間数	1単位 15時間	
授業方法	講義	8	演習	7	実験・実習・実技	1	
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任

《学習目標》

医療用放射線は歯科医療の場で正当に、安全に用いられなければならない事を理解する。

歯科医療の場で歯科衛生士が果たすべき役割を正しく認識し、撮影の補助ができる能力を習得する

《到達目標》

適切な治療を行うために、放射線の必要性と危険性、その利用方法を理解し、歯科エックス線検査において安全で適切な準備、撮影後の処理ができる。

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実習
1	歯科医療と放射線	○		
2	エックス線画像の形成	○		
3	歯科におけるエックス線検査	○		
4	口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		○	△
5	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割		○	△
6	写真処理と画像保存の実際		○	△
7	放射線治療と口腔管理		○	△
8	まとめ	○		

《評価方法》

定期試験で総括的評価を行う

出席状況、レポート(3~4回)、授業態度などを総括評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教法「歯科放射線」(医歯薬出版)

《実務経験》

歯科臨床歴15年、(琉球付属病院歯科口腔外科(3年)、県内診療所(4年)

はごろもファミリー歯科開設(8年))の実務経験をフィードバックして

上記 学習目標、到達目標を指標とした講義、実習を行う予定。

科 目 名	歯科予防処置（齲歎予防処置）			授業担当者	喜久村 綾子	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位70時間（内24時間担当）	
授業方法	講義	12	演習		実験・実習・実技	12
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《學習目標》

歯科医院や集団健診で行われているう蝕予防について基礎知識の理解と実技が行えることを目標とする

《到達目標》

- ①齲歯予防処置法における臨床応用の配慮点を理解し、作用機序や安全性について説明ができる
 - ②齲歯予防処置法に用いる材料の特性を熟知し安全に操作・使用できる
 - ③齲歯活動性試験について説明できる

授業計画		授業方法		
回	授業内容	講義	演習	実習
1	齲歯予防処置の総論 フッ素洗口法	○		△
2	フッ化物歯面塗布法（綿球法・歯ブラシ法）	△		○
3	フッ化物歯面塗布法（トレー法）フッ化ジアンミン銀	△		○
4	齲歯活動性試験（RDテスト・カリオスタット・CAT21Buf）	△		○
5	小窩裂溝填塞（頸模型）	△		○
6	小窩裂溝填塞（相互実習）	△		○

《評価方法》

レポート提出と定期試験で評価を行う
出席状況を加味する

《教科書・参考文献》

歯科衛生士のための齲歯予防処置法 第二版 (医歯薬出版株式会社)

歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版株式会社)

保健生態学 (医歯薬出版株式会社)

《実務経験》

歯科医師として乳幼児の齲歯予防に携わり、その実務経験をもとに予防処置について講義する

科目名	歯科予防処置				授業担当者	眞玉橋 由和	
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 70時間(内46時間担当)	
授業方法	講義	4	演習		実験・実習・実技	58	
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任

《学習目標》

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。

特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。

《到達目標》

- ・ 手用スケーラーの種類と特徴を説明できる.
- ・ SRP前の観察と留意点について説明する.
- ・ SRPに用いる器具を説明する.
- ・ SRPの基本を説明する.
- ・ マネキンを使ってSRPの基本操作をする.
- ・ シャープニングする各種スケーラーの形態と名称を説明できる.
- ・ 各種スケーラーのシャープニングを実施できる.
- ・ 超音波スケーラーの特徴を説明できる.
- ・ 超音波スケーラーの使用方法を説明できる.
- ・ 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる.
- ・ 歯周病に関連する検査をあげる.
- ・ 口腔内写真撮影を実施出来る。

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験実習
1	・シックルスケーラー基礎実習			○
2~4	・キュレットスケーラー基礎実習	△		○
5	・シャープニング	△		○
6~9	・キュレットスケーラー相互実習			○
10	・口腔内写真撮影講義			○
11・12	・超音波スケーラー講義・基礎実習			○
13・14	・超音波スケーラー相互実習	△		○
15~17	・口腔内写真相互実習			○
18	・まとめ	○		

《評価方法》

原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。

実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本 「歯周病学 第2版」（医歯薬出版）

歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」（永末書店）

加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スケーリング・テクニック」（医歯薬出版）

加藤久子(著) 「トータルスケーリングテクニック」（医歯薬出版）

《実務経験》

歯科衛生士として障害者歯科センターで勤務。

主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。

これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。

科目名	歯科予防処置				授業担当者	眞玉橋 由和	
開講時期	2年 後期				単位・時間数	2単位 70時間	
授業方法	講義	14	演習		実験・実習・実技	60	
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任

《学習目標》

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。

特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。

《到達目標》

- ・ 手用スケーラーの種類と特徴を説明できる。
- ・ SRP前の観察と留意点について説明する。
- ・ SRPに用いる器具を説明する。
- ・ 口腔内検査を習得する。
- ・ 偶発事故の処理法を理解する。
- ・ 血液暴露事故の際の処理法を理解する。
- ・ 各種スケーラーのシャープニングを実施できる。
- ・ 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる。
- ・ 歯周病に関する検査をあげる。
- ・ 患者の口腔内の状況を知り、予防管理の重要性を学ぶ。

《授業計画》		授業方法			
回	授業内容	講義	演習	実験	実習
1	・キュレットスケーラー基礎実習				○
2~8	・キュレットスケーラー相互実習		△	○	
9・10	・歯周ポケット測定、シックルスケーラー、超音波スケーラー基礎実習				○
11~18	・患者実習	△		○	
19・20	・歯周ポケット測定実習、シックルスケーラー実習、超音波スケーラー実習				○
21	・まとめ	○			

《評価方法》

原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。

実技テスト、課題提出、授業態度を加味し、総括評価を行う。

《教科書・参考文献》

- 最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」 (医歯薬出版)
- 最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 (医歯薬出版)
- 最新歯科衛生士教本 「歯周病学 第2版」 (医歯薬出版)
- 歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」 (永末書店)
- 加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スケーリング・テクニック」 (医歯薬出版)
- 加藤久子(著) 「トータルスケーリング・テクニック」 (医歯薬出版)

《実務経験》

歯科衛生士として障害者歯科センターで勤務。

主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当。

これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。

科目名	歯科保健指導				授業担当者	上原生子					
開講時期	2年 前期				単位・時間数	2単位 60時間					
授業方法	講義	6	演習	32	実験・実習・実技	22					
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任				
《学習目標》											
<ul style="list-style-type: none"> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する 歯科保健指導の基礎となる対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する 											
《到達目標》											
<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の目的や得られる情報を説明できる 医療面接の目的を説明できる 歯科衛生過程概要を活用し臨床予備実習において実践できる 各ライフステージの口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる 各ライフステージの歯科保健指導を実施できる 各ライフステージの食生活指導を実施できる 禁煙指導・支援について説明できる 											
《授業計画》				授業方法							
授業内容				講義	演習	実験	実習				
<ul style="list-style-type: none"> 地域歯科保健活動【1コマ】 歯科衛生過程の進め方：1年次の復習【1コマ】 対象別の歯科衛生介入（演習）【2コマ】 <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに対応した歯科衛生介入（青年期） 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理（実習）【3コマ】 歯科衛生過程の進め方（演習）【10コマ】 <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生アセスメント～歯科衛生評価 対象別の歯科衛生介入（実習）【8コマ】 <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに対応した歯科衛生介入（青年期） 歯科衛生介入としての歯科保健指導【1コマ】 <ul style="list-style-type: none"> 食生活指導（栄養指導）の進め方、喫煙者に対する指導 研究発表【4コマ】 				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（2回）により判定する 前期試験：50%、後期試験：50% 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技評価、発表評価、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う 				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
《評価方法》											
<ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版（医歯薬出版） 「歯科衛生士のための 横食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版） オーラルヘルスケア事典（学建書院） よくわかる歯科衛生過程、事例でわかる歯科衛生過程（医歯薬出版） 口腔保健実践ガイドブック 第2版（学建書院） その他参考資料を適宜紹介 											
《実務経験》											
<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います 											

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	上 原 生 子	
開講時期	2 年 後期				単位・時間数	1単位 42 時間	
授業方法	講義	24	演習	4	実験・実習・実技	14	
授業場所	校内		校外		教 員	兼任	専任

《学習目標》

- ・ 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する
- ・ 生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する
- ・ ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する
- ・ 口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識技術及び態度を習得する
- ・ 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術及び態度を習得する

《到達目標》

- ・ 健康教育の対象と場の特徴を概説できる
- ・ 健康教育活動の方法を説明できる
- ・ 健康教育に必要な情報を収集できる
- ・ 健康教育の計画立案ができる
- ・ 健康教育の内容を説明できる
- ・ 地域歯科保健活動の工夫と留意点を説明出来る

《授業計画》

回	授 業 内 容	授業方法			
		講 義	演 習	実 験	実 習
1	対象別歯科衛生介入【8コマ】 ↓ 配慮を要する者への歯科衛生介入 (要介護高齢者)	○			○
5	対象別歯科衛生介入【6コマ】 ↓ ライフステージに対応した歯科衛生介入 8 青年期～老年期	○	○		○
9	地域歯科保険活動における健康教育【7コマ】 ↓ ライフステージに対応した歯科衛生介入 12 幼児期	○	○		○

《評価方法》

- ・ 定期試験（2回）により判定する
- ・ 前期試験：50%、後期試験：50%
- ・ 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
- ・ 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

《教科書・参考文献》

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）
- ・ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版（医歯薬出版）
- ・ 「歯科衛生士のための 摂食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）
- ・ 「医療連携の役立つ 有病者歯科マニュアル」（医学情報者）
- ・ その他参考資料を適宜紹介

《実務経験》

- ・ 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います

科目名	栄養指導			授業担当者	長嶺 愛香
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位30時間
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技	
授業場所	校内	校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

ヒトの生命維持に深いかかわりを持つ栄養学の基礎知識を学び、歯科診療活動の一環として具体的な栄養指導方法を習得する。

《到達目標》

- ・栄養素の種類と役割や消化吸収について理解し、説明することができる
- ・日本人の食事摂取基準の意義を理解し、欠乏・過剰の予防について理解する
- ・食生活とう歯、歯周疾患との関連性を理解する
- ・ライフステージ別の栄養指導方法を習得する

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験・実習・実技
1	栄養の基礎知識1（食生活と栄養）	○		
2	栄養の基礎知識2（栄養素の消化吸収）	○		
3	食事摂取基準1	○		
4	食事摂取基準2	○		
5	栄養素の働き1（糖質）	○		
6	栄養素の働き2（タンパク質）	○		
7	栄養素の働き3（脂質）	○		
8	栄養素の働き4（ビタミン）	○		
9	栄養素の働き5（ミネラル）	○		
10	栄養素の働き6（水・食物繊維）	○		
11	食生活と食品1（国民の健康と栄養の現状）	○		
12	食生活と食品2（望ましい食生活）	○		
13	食生活と食品3（ライフステージ別の栄養と調理）	○		
14	食生活と食品4（食べ物と健康）	○		
15	総括	○		

《評価方法》

- ・定期試験で判定する
- ・出席状況、授業態度を加味し総括評価を行う

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」（医歯薬出版株式会社）

《実務経験》

管理栄養士として、介護老人保健施設において高齢者の栄養ケアマネジメント業務に従事。大学病院においては献立作成、栄養管理、栄養サポートチーム業務、個別・集団栄養指導業務に従事。乳幼児期から高齢期の患者さまの栄養管理・栄養指導経験より、栄養指導について講義を行います。

科目名	歯科診療補助			授業担当者	稻嶺 直子	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位 70時間	
授業方法	講義	3	演習	実験・実習・実技	71	
授業場所	校内		校外	教員	専任	兼任

《学習目標》

円滑な診療を行うために器械器具や歯科材料の取扱方法および
共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。

《到達目標》

- 1. 共同動作の概念を述べることができる
- 2. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる
- 3. 印象材の練和と管理を実施できる
- 4. 印象採得とその対応を実施できる
- 5. 歯科用石膏の特徴、種類、用途を説明できる
- 6. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる
- 7. 歯内療法の特徴を説明できる
- 8. 歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる
- 9. ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる
- 10. ラバーダム防湿を実施できる
- 11. 矯正歯科治療の特徴を説明できる
- 12. 矯正歯科治療の手順に沿った器材を準備することができる
- 13. 口腔外科治療の特徴を説明できる
- 14. 口腔外科治療の手順に沿った器材を準備できる

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験 実習 実技
1,2	歯科診療における基礎知識 共同動作	△		○
3~11	歯科診療で扱う歯科材料 印象採得			○
12~15	〃 模型の作製			○
16, 17	歯科臨床と診療補助 歯内療法時の診療補助			○
18~23	歯科診療における基礎知識 ラバーダム防湿			○
24	歯科臨床と診療補助 矯正治療時の診療補助			○
25	〃 口腔外科治療時の診療補助			○
26	まとめ	○		

《評価方法》

定期試験(前期・後期)により判定する
前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

《教科書・参考文献》

- 最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論 第2版」 (医歯薬出版)
- 最新歯科衛生士教本「歯科器械」 (医歯薬出版)
- 最新歯科衛生士教本「歯科材料」 (医歯薬出版)

《実務経験》

歯科衛生士として臨床の現場に約10年従事、その実務経験を活かし講義を担当する。

科目名	歯科診療補助			授業担当者	稻嶺 直子	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	2単位 70時間	
授業方法	講義	3	演習	1	実験・実習・実技	68
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

円滑な診療を行うために器械器具や歯科材料の取扱方法および
共同動作の歯科治療の流れを理解し、診療の効果を高める知識・技術を習得する。

《到達目標》

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる | 13. 歯周外科治療の特徴を説明できる |
| 2. 印象材の練和と管理を実施できる | 14. 歯周外科治療の手順に沿った器材を準備することができる |
| 3. 印象採得とその対応を実施できる | 11. 合着材や接着材の特徴、種類、用途を説明できる |
| 4. 保存修復治療の特徴を説明できる | 12. 合着材や接着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる |
| 5. 保存修復治療の手順に沿った器材を準備することができる | 13. ワックスの特徴、種類、用途を説明できる |
| 6. 周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる | |
| 7. 周術期の病態とその治療法を説明できる | |
| 8. 主な全身疾患の概要や口腔所見の特徴と診療での注意点を説明できる | |
| 9. 暫間修復について説明できる | |
| 10. 暫間修復に使用される種類・材料を説明できる | |
| 11. 仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を説明できる | |
| 12. 仮封材や仮着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる | |

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実習
1	歯科診療で扱う歯科材料 印象採得			○
2~4	歯科臨床と診療補助 保存療時の診療補助			○
5	歯科衛生士が関わる医科疾患患者	○	△	
6~12	歯科診療で扱う歯科材料 暫間修復材			○
13~15	〃 仮封・仮着の補助			○
16, 17	歯科臨床と診療補助 歯周外科治療時の診療補助			○
18~21	歯科診療で扱う歯科材料 合着・接着材、ワックス			○
22	まとめ	○		

《評価方法》

定期試験(前期・後期)により判定する
前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

《教科書・参考文献》

- 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」 (医歯薬出版)
 最新歯科衛生士教本「歯科器械」 (医歯薬出版)
 最新歯科衛生士教本「歯科材料」 (医歯薬出版)

《実務経験》

歯科衛生士として臨床の現場に約10年従事、その実務経験を活かし講義を担当する。

科目名	臨床検査			授業担当者	宮里 尚美	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	1単位	16時間
授業方法	講義	14	演習	実験・実習・実技	2	
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《學習目標》

患者の全身状態を把握するために必要な臨床検査の種類や検査を理解する

また、その検査データを解析できる知識・技能を習得する

《到達目標》

- ・臨床検査の種類と検査意義について理解できる
 - ・生体検査、血液検査、生化学検査、免疫・血清・細菌・病理検査などの基礎知識を理解する
 - ・歯科診療と関連する疾患とその検査値の読み方を習得する

《授業計画》

《評価方法》

- 定期検査で総括的評価を行う
 - レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

最新歯科衛生士教本「臨床検査」(医歯薬出版)

《実務経験》

臨床検査技師として急性期医療を行う浦添総合病院検査室勤務を経て、現在は翔南病院検査科に在職中。主に生理検査業務を担当し、超音波検査士及び沖縄県地域糖尿病療養指導士取得。

この実務経験をもとに臨床検査について講義・実習を行います。

科目名	摂食機能訓練法				授業担当者	上地 智博	
開講時期	2年 後期				単位・時間数	1単位 24時間	
授業方法	講義	14	演習	4	実験・実習・実技	6	
授業場所	校内		校外		教員	兼任	専任

《学習目標》

摂食・嚥下障害が全身に及ぼす影響を十分に理解し、これらの疾患に対して口腔ケアを通して予防、訓練法を修得し全身の健康を維持増進させること

《到達目標》

1. 摂食嚥下障害の概念を理解する
2. 摂食嚥下に関する解剖学を理解する
3. スクリーニングと精査、評価について理解する
4. 訓練方法について理解する
5. 口腔ケアについて理解する

《授業計画》

回	授業内容	授業方法			
		講義	演習	実習	実技
1	摂食・嚥下障害の概念について(発達期と中途障害における分類・病態・原因)	○			
2	摂食・嚥下にかかる解剖について(嚥下の各期について)	○			
3	スクリーニングと精査	○			△
	評価(Rsst、改良水飲みテスト、フードテスト、VF、VE)				
4	訓練法(直接訓練と間接訓練について)	○			△
5	訓練法(直接訓練と間接訓練について)	○			△
6	摂食・嚥下障害患者症例の検討会		○		

《評価方法》

定期試験で、総括的評価を行う

授業態度などを総括的評価に加味する

《教科書・参考文献》

「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション2版」(医歯薬出版)

動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション(中山書店)

摂食・嚥下障害のVF実践ガイド(南江堂)

《実務経験》

平成20年8月 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士取得

歯科医師として沖縄県口腔保健医療センターにて月2回摂食指導を担当

この実務経験をもとに講義を行います

科目名	臨地・臨床実習			実習担当者	指導教員	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	6単位 270時間	
実習方法	講義		演習		実験・実習・実技	270
実習場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

歯科衛生士業務を習得するために歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

《到達目標》

* 臨床実習

- ・歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる
- ・スタッフ(多職種)との協働、連携した対象者へのサービスができる
- ・診療室のルールを理解した行動ができる
- ・医療安全管理に配慮した行動ができる
- ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる
- ・器材、機器および薬品の管理方法を理解した行動ができる
- ・患者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる

* 臨地実習

- ・対象者からの要求を理解した対応ができる
- ・対象に応じて配慮した対応ができる
- ・対象のプライバシーを配慮した態度で応接できる
- ・安全管理に配慮した行動ができる
- ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる
- ・集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる

実習スケジュール		実習方法			
	内 容	講義	演習	実習	実技
1	歯科診療所実習				○
2	病院実習(口腔外科)				○
3	口腔保健医療センター				○
4	障害者施設				○
5	高齢者施設				○
6	幼稚園				○

《評価方法》

臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する

《教科書・参考文献》

「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典 ポケット版」(クインテッセンス出版)

歯科衛生士教育サブテキスト「臨床実習HAND BOOK」(クインテッセンス出版)

科目名	介護技術法			授業担当者	國吉 恒子	
開講時期	2年 後期			単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	16	演習	実験・実習・実技	16	
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

介護の基本的な技術を修得し老化や障害によって、日常生活に支障のある人に対して
生活の自立と満足した生活に向けて援助することができる
歯科診療等に当たって、安心・安全・自立支援・個人の尊厳を念頭に援助ができる

《到達目標》

- ・我が国の高齢社会の特徴を学び、介護の機能と役割を学ぶ
- ・高齢者の歯科診療時のコミュニケーション法や対応方法を学ぶ
- ・介護の基本技術を学び、寝たきり高齢者への対応、その他、救急方法を学ぶ

《授業計画》

回	授業内容	授業方法			
		講義	演習	実験	実習
1	日本の高齢社会の現状を学び、歯科診療に生かす なぜ、介護・介助のスキルが必要かを学ぶ	△		○	
2	高齢者や要介護者との効果的なコミュニケーション方法を学ぶ 他職種との連携、コミュニケーション法を学ぶ	△		○	
3	歯科診療所や施設での要介護者への対応方法を学ぶ 車椅子の操作方法を学ぶ	△		○	
4	麻痺患者の衣服の着脱を学ぶ 患者さんに安心・安全で快適な診療姿勢やボディメカニクスを学ぶ	△		○	
5	寝たきり高齢者への対応、介護技術を学ぶ 一般状態の観察ができる	△		○	
6	体位変換法を学ぶ 要介護者の移動方法を学ぶ	△		○	
7	緊急時の対応方法を学ぶ 地域の医療機関との連携や地域の社会資源を学ぶ	△		○	
8	総合的な学習・復習・テスト対策	△		○	

《評価方法》

レポート提出、出席状況、授業態度、定期試験で総合的に評価する。

《教科書・参考文献》

「介護・介助の基本スキル」(医歯薬出版株式会社)

《実務経験》

沖縄リハビリテーション福祉学院(14年)、那覇看護専門学校(7年)、沖縄赤十字病院(5年)

ハートライフ病院(3年)、那覇市社会福祉協議会デイサービス(10年)等で勤務。

この実務経験をもとに講義いたします。

科目名	隣接医学・救急蘇生法			授業担当者	上田 剛生	
開講時期	2年 前期			単位・時間数	2単位30時間	
授業方法	講義	30	演習	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外	教員	兼任	専任

《学習目標》

人体の構造と機能及び疾病の基本的理解

医療と公衆衛生の基本的理解

《到達目標》

生活習慣病、身体疾患、精神疾患を理解し、基本的な対応を習得する
リハビリ医療、公衆衛生の現状を理解する
救急蘇生法を理解する

《授業計画》

回	授業内容	授業方法		
		講義	演習	実験 実習 実技
1	人の成長・発達と老化	○		
2	身体構造と心身の機能	○		
3	疾病の概要と患者の管理1	○		
4	疾病の概要と患者の管理2	○		
5	疾病の概要と患者の管理3	○		
6	疾病の概要と患者の管理4	○		
7	疾病の概要と患者の管理5	○		
8	疾病の概要と患者の管理6	○		
9	疾病の概要と患者の管理7	○		
10	疾病の概要と患者の管理8	○		
11	疾病の概要と患者の管理9	○		
12	有病者の口腔ケアと医療連携	○		
13	救急蘇生法I	○		
14	救急蘇生法II	○		
15	まとめ	○		

《評価方法》

レポート提出、出席状況や授業態度、定期試験で総括的に評価を行う

《教科書・参考文献》

医療連携”に役立つ有病者歯科マニュアル（医学情報社）

新・社会福祉I:養成講座(1)人体の構造と機能及び疾病-医学一般（中央法規）

ポイントチェック歯科衛士:国家試験対策5（医歯薬出版）

《実務経験》

歯科医師として沖縄県立中部病院、歯科口腔外科に勤務。

主に口腔外科の治療を担当。

総合病院での実務経験をもとに隣接医学・救急蘇生について講義を行います。